

# コロナ禍における消費支出の異質的反応

## Fear of COVID-19 Contagion: Heterogeneous Responses of Consumption to COVID-19

菊池淳一      長尾遼也      中園善行

横浜市立大学/大阪大学      横浜市立大学      横浜市立大学/内閣府<sup>1</sup>

ESRI 経済政策フォーラム

---

<sup>1</sup>当発表の内容は筆者らの個人的な見解であり、内閣府の公式見解ではない。

## 研究の概要

### 研究の問い

コロナ禍で消費行動はどのように変化したか？

### 結論

- (1) 世代間で消費に異質性
- (2) 感染者数増 → 高年齢者は若年者よりも消費を最大1割以上落とす
- (3) 感染への「恐怖」が消費に波及

### 研究の含意

感染症への「恐怖」が消費への波及経路として重要

## 先行研究

## コロナ禍における消費

## 水準変化、格差変化、政策効果、「バスケット」

1. コロナ禍における消費水準：消費は感染拡大の早期に増加後、減少
  - ▶ Baker et al.(2020)、Chetty et al.(2020)、Coffey et al.(2020)
2. コロナ禍における消費格差の変化：格差はいったん縮小・・・
  - ▶ Aspachs et al. (2021)、Cotton et al.(2021)、Hoke et al.(2021)
  - ▶ Braun and Ikeda (2020)
3. 政策効果分析：ロックダウン、自粛要請政策、特別定額給付金
  - ▶ Alexander and Karger(2021)、Baker et al.(2020)、Goolsbee and Syverson(2021)、Kaneda et al.(2021)、Kubota et al.(2021)、Watanabe and Yabu(2021a, b)、宇南山他 (2021)
4. 消費バスケットの変化、「インフレ率」
  - ▶ Cavallo(2020)、Jaravel and O'Connell (2020)、Konishi et al.(2021)、Watanabe (2020)

感染への「恐怖」が消費を抑制：Immordino et al.(2021)

## 本研究における分析内容

### コロナ禍における家計の消費行動を分析

- ▶ 「感染への恐怖」が消費に与えた可能性を検証
  - ▶ 高年齢者ほど重症化：Wu and McGooan(2020)、Lian et al.(2020)
  - ▶ 高年齢者ほど死亡率高：Gold et al.(2020)、Wortham et al.(2020)
  - ▶ 所得ショック等では説明できない「新しい経路」の存在
- ▶ 日本の家計の消費データとサーベイデータを接続
  - ▶ 消費データ: 買回り品を対象にしたデータ
  - ▶ サーベイデータ: 新型コロナ禍の生活の変化に関する調査
- ▶ 世代間における消費の異質性を分析

### 本研究の発見

- (1) 世代間で消費に異質性
- (2) 感染が拡大 → 高年齢者は若年者よりも消費を1割以上落とす
- (3) 「恐怖」が消費への波及経路として重要

## データ：消費パネル

### インテージ社 SCI（民間消費パネルデータ）

- ▶ 日本の家計 5 万人以上を対象とした購買履歴データ
- ▶ 「いつ、どこで、誰が、何を、いくらで買ったか？」
- ▶ 日次のデータを月次に集計

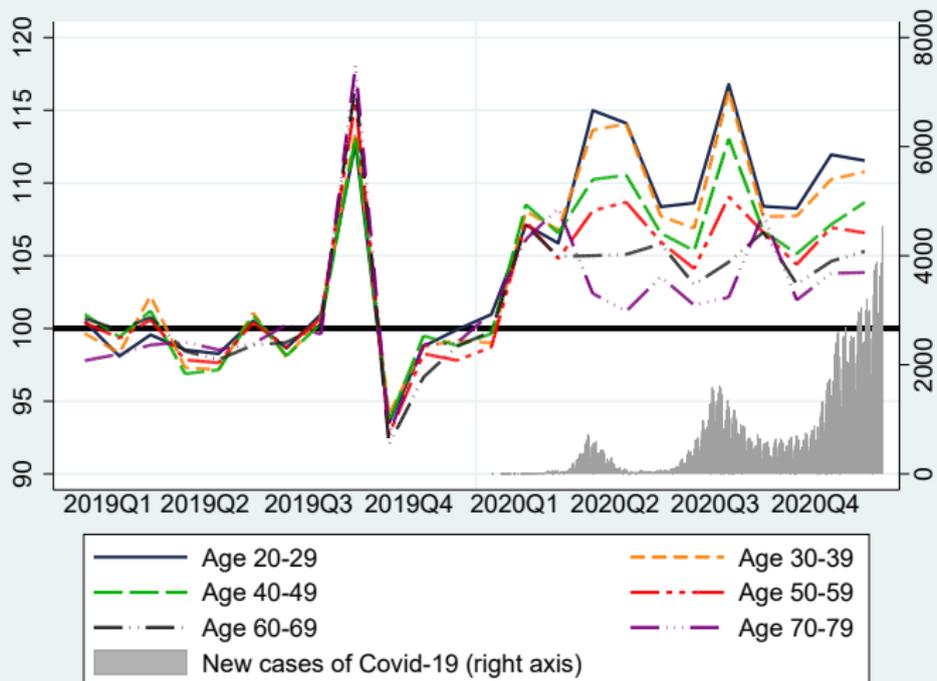
## データ：アンケート調査

### 新型コロナに関わるアンケート調査（インテージ社）

#### コロナ禍での生活の変化を調査

- ▶ 2020年各四半期における生活の変化を調査
  
- ▶ 調査項目
  - (1) 学校や塾の休校
  - (2) 失業の有無
  - (3) 収入の増減
  - (4) 在宅勤務の有無
  - (5) コロナ禍での行動の変化 (外出、外食、買い物 etc.)
  - ⋮

## 世代別の消費：2019年平均を100として指数化（インテージ社 SCI）



コロナ禍に対する消費の反応は世代間で異質性が見られる

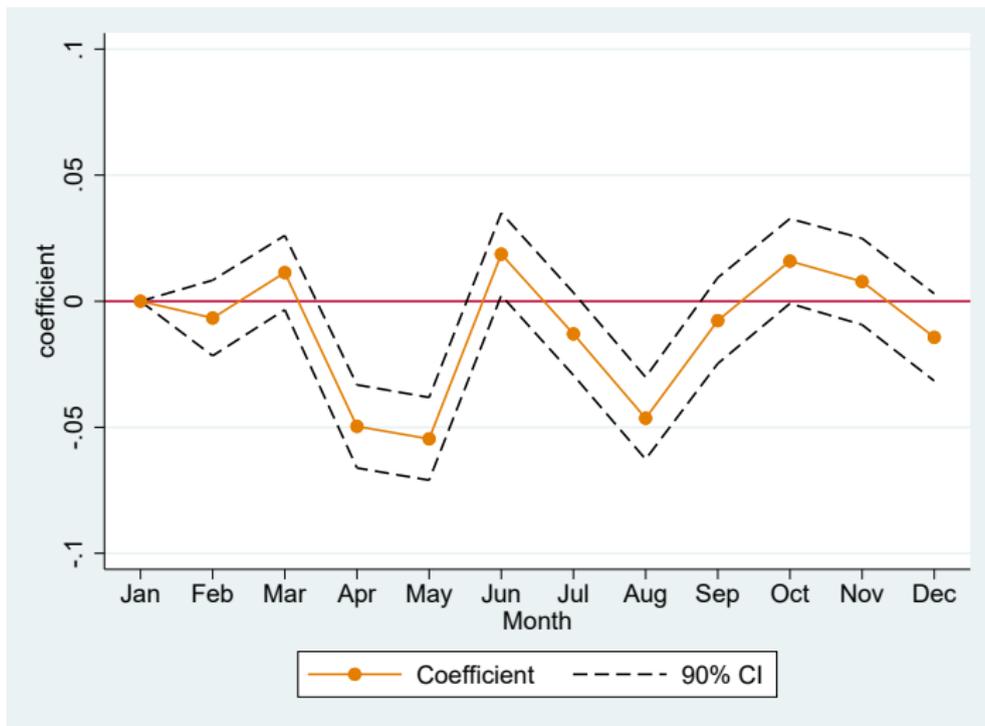
## 推計

## 世代間の異質性の大きさを推計モデルで定量化

$$\ln \left( \frac{C_{i,t}}{C_{i,t-12}} \right) = \alpha D^{Elder} + \sum_j \beta_j D^{Month_j} + \sum_k \gamma_k D^{Month_k} \times D^{Elder} + \mathbf{X}\delta + \varepsilon_{i,t},$$

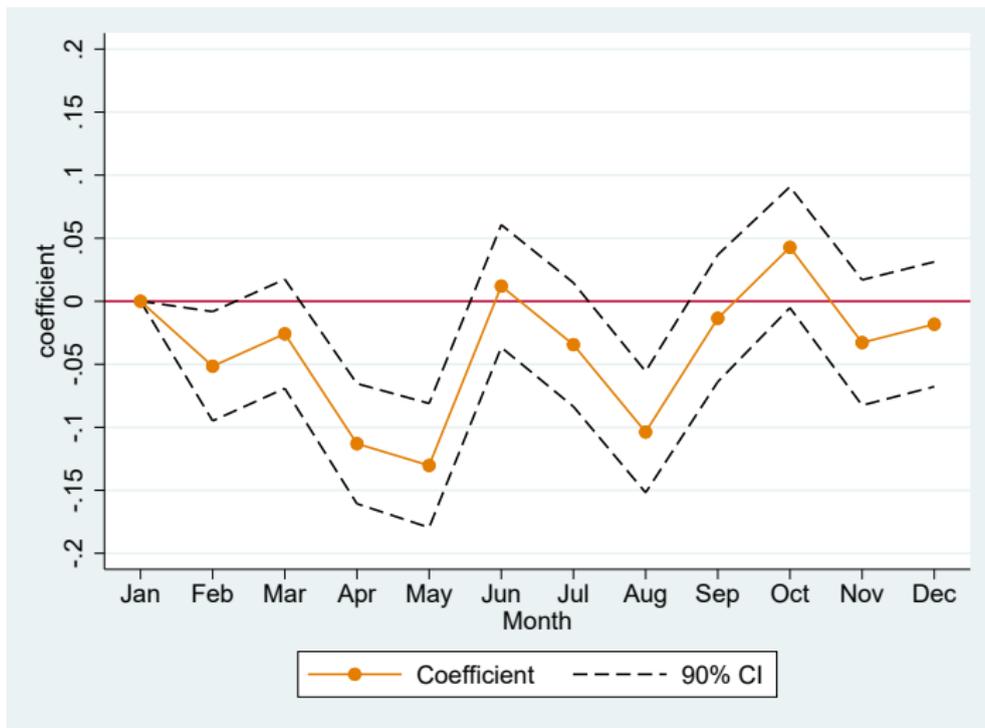
- ▶  $C_{i,t}$  : 個人  $i$  の月次 (総) 支出額
- ▶  $D^{Elder}$  : 60 歳以上ダミー
- ▶  $D^{Month}$  : 月次ダミー
- ▶  $\mathbf{X}$  : コントロール変数ベクトル
  
- ▶  $\gamma$  の符号に注目: 「負」であれば高年齢者は (相対的に) 支出を抑制

## 月次ダミーと高年齢者ダミーの交差項の推移 (Dynamic DID)



高年齢者は食品への「支出減」が顕著

## 月次ダミーと高年齢者ダミーの交差項の推移 (Dynamic DID) : 食品



「食品」への支出の差が顕著 (最大 13%)

## 「買い物頻度」への影響

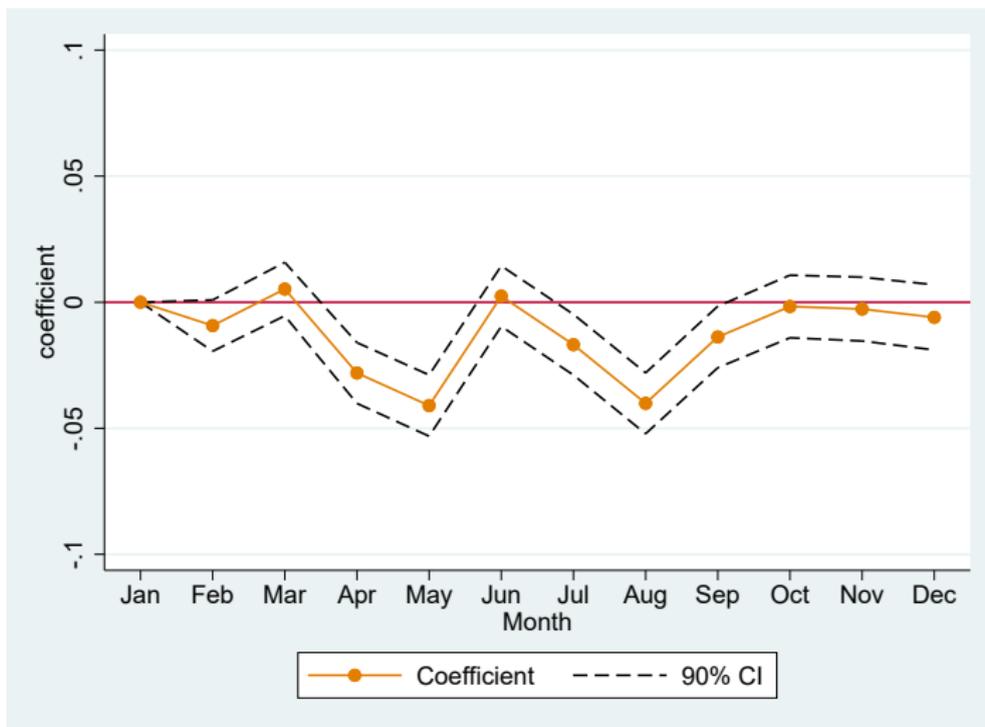
### 買い物頻度は世代間で異なるか？

消費パネルデータから、個人毎の買い物頻度を推定

$$\ln \left( \frac{Visit_{i,t}}{Visit_{i,t-12}} \right) = \alpha D^{Elder} + \sum_j \beta_j D^{Month_j} + \sum_k \gamma_k D^{Month_k} \times D^{Elder} + \mathbf{X}\delta + \varepsilon_{i,t},$$

- ▶  $c_{i,t}$  : 個人  $i$  の買い物頻度（1か月あたり小売店来店頻度）
- ▶  $D^{Elder}$  : 60歳以上ダミー
- ▶  $D^{Month}$  : 月次ダミー
- ▶  $\mathbf{X}$  : コントロール変数ベクトル
  
- ▶  $\gamma$  の符号に注目: 「負」であれば高齢者は買い物頻度を減らしている

## 月次ダミーと高年齢者ダミーの交差項の推移 (Dynamic DID) : 「買い物頻度」



高年齢者は買い物回数を抑制：「感染への恐怖」

## 結論

## コロナ禍に対する消費の反応は世代間で異質的

- (1) 世代間で消費に異質
  - ▶ 高齢者は若年者と比較して消費を抑制
- (2) 感染者数増 → 高齢者は若年者よりも消費を1割以上落とす
  - ▶ 70代の消費減少が顕著
- (3) 伝統的な波及経路（所得や失業）とは別の経路が存在
  - ▶ 政策介入？ 「恐怖」？ ワクチン？ COVID-2X？

「コロナ」という総需要ショックが個人に異質なショックとして作用  
「恐怖」が消費への波及経路として重要